

既調合目地材

評価の内容（申請資料に基づき、次の事項を確認している。）

1. 評価対象建築材料

評価の対象とした既調合目地材は、標準仕様書 1 1 章 2 節に規定する既調合目地材とし、主として外装用を対象としている。

2. 品質・性能等

以下の品質・性能について、実施要領に規定する試験機関による試験結果等で確認している。

項目	品質・性能
保水率	30 %以上
長さ変化率	0.2 %以下（収縮）
吸水量	50 g 以下
単位容積質量[参考値]	参考値を確認する（1.80 kg/ℓ以上）

3. 試験方法

(1) 試験の条件

試験室は、温度 20±2 ℃、湿度 65±5 % RH の標準状態とする。また、試験に使用する材料、器具などを、あらかじめ 24 時間以上標準状態に置いた後使用する。

(2) 試料の調整

正味質量と標準練り上がり量より、1.0～1.2 ℓの試料を練り上げるのに要する材料に相当する量を計算して用意し、さらに標準加水量より用意した材料に相当する量の練り混ぜ水を計算して用意する。

練り混ぜは、JIS R 5201（2015）「セメントの物理試験方法」11.2 に規定する練混ぜ機を使用し、練りばちに用意した水を入れ、攪拌しながら 30 秒間に材料を投入し 3 分間練り混ぜて試料とする。

(3) 保水性（ろ紙法）

JIS R 3202（2022）「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定する磨き板ガラス（縦 200 mm、横 200 mm、厚さ 5 mm）の上に JIS P 3801（1995）「ろ紙（化学分析用）」に規定する 5A ろ紙（直径 18.5 cm）をのせ、その中央部に真鍮製リング型わく（内径 50 mm、高さ 10 mm、厚さ 3 mm）を設置し、2）で練り混ぜた試料を金べらで平滑に詰め込む。その後、直ちにリング型わく上部にガラス板を当て上下を逆にし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。10 分後にろ紙へにじみ出した水分の広がり最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さをノギスを用いて 1 mm まで測定する。

試験は 3 回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。

$$\text{保水率（\%）} = 50 / \text{平均値} \times 100$$

注）50：リング型わくの内径（mm）

(4) 単位容積質量

2）で練り混ぜた試料を、JIS A 1171（2016）「ポリマーセメントモルタルの試験方法」の 6.4 に規定する方法で求める。

(5) 長さ変化率

2）で調整した試料を用いて JIS A 1171 の 7.8 長さ変化率試験に従って行う。

(6) 吸水量

2）で調整した試料を用いて JIS A 1404（2015）「建築用セメント防水剤の試験方法」7.5 に規定する方法で 24 時間の吸水量を求める。試験体数は 3 個とし、その平均値で示す。